

特殊動物の飼い主のための緊急チェックリスト

爬虫類、鳥類、両生類、小型哺乳類がいつもと違う様子のとき、何を確認し、いつ病院に行くべきかをまとめました。このチェックリストは観察のためのガイドであり、診断ではありません。

緊急時にまず行う3つのこと

1

落ち着いて観察・記録する

症状が始まった時間と、最後に食事・排便をした時間をメモしておく、病院での診察がスムーズになります。

2

無理に何かをしない

無理な給餌、脱皮不全(shed)を無理に剥がすこと、強く押さえつけることは、状態を悪化させることがあります。

3

受診できるか確認してから向かう

事前に電話して、その病院が実際にその動物種を診てくれるか確認しましょう。無駄足を防げます。

今すぐ病院に行くべきサイン

は虫類の緊急サイン

- 骨の変形や足に力が入らない
- 指の腫れや脱皮不全
- お腹が硬く膨らみ排便がない
- 目を開けられず餌を食べない

鳥類(インコ・オウム)の緊急サイン

- 羽をむしった部分の傷や出血
- 総排泄腔の腫れと呼吸困難
- 迎えた直後の食欲不振

両生類の緊急サイン

- 赤い斑点が広がる
- 皮膚のただれや白い綿状のもの
- 動きが明らかに鈍くなる

小動物(うさぎ・ハムスター・ハリネズミ)の緊急サイン

- 排便がない
- 頬袋の脱出
- 体がこわばる、またはふらつく

病院への移動中

- 爬虫類・両生類は、キャリーを普段の飼育温度に近く保ちましょう。冬はカイロをタオルで包み、直接体に触れない位置に置きます。
- 鳥類は、キャリーを薄い布で覆い、暗く静かな状態を保ちましょう。
- 小型哺乳類は、急な温度変化を防ぐため毛布やタオルで包みましょう。
- 滑り止めのマットと、身を隠せる隠れ家(hide)を用意しましょう。
- カイロや保冷剤は必ずタオルで包み、直接皮膚に触れないようにしましょう(低温やけども急激な冷えもどちらも危険です)。
- 揺れや音を最小限にし、車内に一人を残すことは短時間でも絶対に避けましょう(特に夏場は危険です)。

このチェックリストは、特殊動物の状態を観察し、病院に行くべきかを判断するための参考資料であり、獣医師による診断や治療の代わりにはなりません。警戒すべきサインが見られた場合は、自己判断で対処せず、すぐに特殊動物を診療している病院に連絡してください。

[検証済みの特殊動物病院を探す](#)

[PetScan AIで無料スキャン](#)



このチェックリストはPetScan AI(petscanai.net)が提供しています。QRコードをスキャンして、すぐにAIでチェックできます。